

石川モンゴル親善協会だより

байгаль ЭХ байгал эх (母なる自然)

創刊号

石川モンゴル親善協会事務局

〒920-8602 石川県金沢市御所町丑10-1
金沢星稜大学 沢田勲 気付

TEL 090-9449-4323

FAX 076-223-1057

発会式行われる



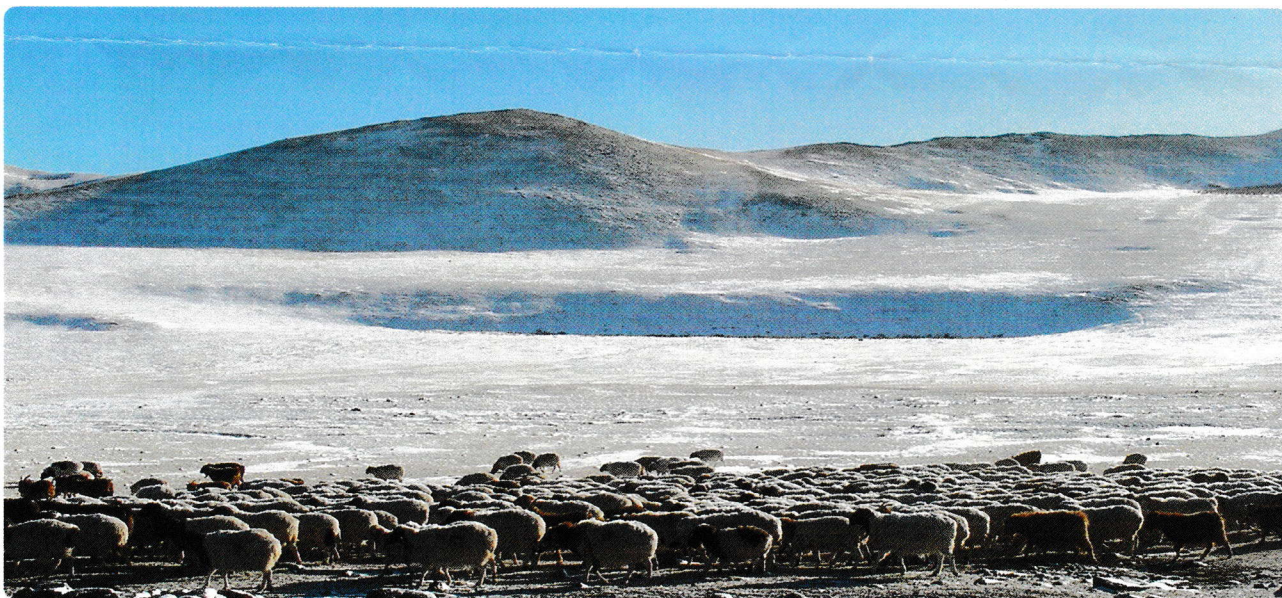
2月9日、土曜日、金沢市大手町のKKRホテル金沢で午後3時より、関係者約60名が出席し盛大に発会式が開かれた。モンゴル国からは在日大使館のエルデネグワニー等書記官をはじめ研修生として金沢で学んだモンゴル国鉄のブレフバートル副総裁や、現役の金沢大学がん研究所で学ぶ留学生のガントウルガさんやアニールさんも出席した。国会議員の馳浩さん、石川県国際交流課の豊原課長、金沢市国際文化課の河原課長、JICA北陸支部の杉原支部長が祝辞を述べた。沢田会長の挨拶では会が発足するまでの経緯と石川とモンゴルの友好・親善を一層深めるだけではなく、モンゴルが現在抱えている課題、草原の荒廃に派生する首都ウランバートルでのストリートチルドレン等の問題にも触れ、今後アジアの友人として手助けできる活動

をしたいと抱負を語った。引き続いて「わたしのモンゴル」というテーマで、かつて金沢で大学生活を過ごしたオトゴンツェツェグさん（在ウランバートル日本大使館勤務、今回当協会で招待）の講演があり、苦労もあったけれど楽しかった金沢での大学生活の思い出や、映像で紹介された、モンゴルの雄大な自然に会場の出席者は興味深く聞き入った。祝電が2通あり、富山モンゴル友好親善協会と石川県日中友好協会であった。

発会式の終わりに会場より、モンゴルの将来についての質問があり、エルデネダワニーさんが丁寧に真摯に答えられたのが印象的であった。この場の雰囲気ですぐに協会員に加入された方も少なくないと思われる。

石川・モンゴル親善の夕べ

発会式に引き続いて、同ホテルの「孔雀の間」で、「親善の夕べ」と名付けてレセプションが開かれた。環日本海国際学術交流協会の山村会長が祝辞を述べ、村上当協会理事（金沢大学）の発声で乾杯をした。2時間余りを会員の互いの紹介や、なごやかな歓談ですごした。李彩霞さんがオープニングには二胡で、美しい古雅なしらべを、会の終わりには馬頭琴で馬が疾走するような力強い演奏をしてしめくくった。会の発展を祈るように聞こえ、多くの人が魅了された。



本協会の概要

本協会は、2007年6月に駐日モンゴル国特命全権大使レンチェンドー・ジグジツト氏の金沢講演をきっかけとして、これまで草の根運動としてモンゴルとの友好・親善に尽力された人々が結集して、2008年2月9日設立されました。現在、個人会員52名、賛助会員3名、法人会員4団体が加盟いたしております。

本協会は、石川県民とモンゴル国民との交流を促進して、日本とモンゴル国の相互理解と親善の増進に寄与することによって、アジアの安定、ひいては世界平和に貢献することを目的としています。それゆえ、本協会はその目的推進のため、全国各地の日本、モンゴル両国の友好団体と連携しながら、以下の諸活動をおこなっております。

1. 日本とモンゴル国との経済、及び文化交流の促進。
2. 日本、モンゴル両国の事情の紹介と研究。
3. 石川県在住のモンゴル人との交流、支援。

モンゴル料理の食事会や、ゲル生活体験、馬頭琴演奏会の企画など、モンゴル文化との交流を企画しております。とても楽しい会です。本協会の趣旨に賛同される方は、是非、私どもと一緒に活動しませんか。会費は3000円です。（入会金1000円）

石川モンゴル親善協会発足のごあいさつ



沢田 勲

本協会は、これまで長い間モンゴルとの友好、親善に取り組んできた方々の努力により、発足いたしました。私が会長をお引き受けすることになったのは、会員の方々のご支援により、これまで築かれた人の輪（ネットワーク）を大切に、より一層、石川県とモンゴル国との友好、親善の輪を広げたいと考えたからです。

私たちは同じアジアの友人として、モンゴル国と友好を深めることはアジアの平和を促進するうえで大変大切なことと思います。モンゴル国は、発展途上の国で現在数多くの問題をかかえております。たとえば、マンホールチルドレンに象徴されるような教育の問題、河川汚染や草原の砂漠化に見られる環境問題等、様々です。私たちに何ができるかまだ暗中模索の段階ですが、これまでのネットワークに支えられながら、全国各地にあるモンゴル国との友好団体と連携をとりながら、微力ながら日本とモンゴルの交流の輪をさらに大きくしたいと考えております。どうかよろしくお願いします。

今後の行事予定

会員交流会

60名近くの入会者を迎え、お互いの親睦を深め、今後の協会の具体的な活動方針などを話し合うための交流会を6月27日（金）午後6時30分に香林坊大和8Fファミリーレストランのロイヤルルームで行います。お気軽にご参加下さい。会費は、2,000円（飲み物別）です。

国際交流祭

例年市役所前広場で行われている国際交流祭に今年から参加する予定です。今年は10月4・5日に行われます。内容については検討中です。

その他

モンゴル人講師による「やさしいモンゴル語会話」や「モンゴル文化研究会」なども検討中です。皆様の御希望や御意見などもぜひお聞かせ下さい。

夏のモンゴルツアー参加者大募集

待望のモンゴルツアーを8月22日（金）出発、8月29日（金）帰国、関西空港発着、モンゴル航空機使用で実施する予定です。予算は23万円前後、コースはAグループ、ウランバートル、テレルジ（主として母子家庭支援プログラム、ストリートチルドレン問題の事情調査、観光など）、Bグループ、ウランバートル、アルバイヘル、ハラホリン方面（主として環境問題を考える、観光）の予定です。詳細については、後日参加希望者にご案内します。さしあたり、参加希望者数を確定しなければなりません。できるだけ数多くの方々の参加をお待ちしています。参加希望者は6月16日（月）までに、ハガキかFAXで事務局藤木まで申し込んで下さい。

〔宛先 〒920-0862

金沢市芳斉2-11-18 藤木正範

FAX (076) 223-1057

TEL090-9449-4323 〕



会員の声

恒川 貴代

「私にとってのモンゴル」

私がモンゴルと出会ったのは22歳の時です。海外旅行に行き始めて2回目。どこかホームステイをしたいな、と軽い気持ちでネットを検索していると出てきたのが「モンゴルのゲルでホームステイ」の文字。モンゴルかぁ、青い空に草原……いいかも。と何も考えずにモンゴルに決めたのでした。全くの知識が無いままふらりとモンゴルに足を踏み入れて見た景色は描いていた景色よりも壮大で、感動という言葉では言い表せないくらい素晴らしく、モンゴルの田舎で聞く音は風の音、鳥の羽音、馬の鳴き声。朝は山羊や羊の声で目を覚まし、夜はプラネタリウムで見た天の川が目の前に広がる。時には雷が地平線の向こう側から徐々に向ってくる様を眺め、雲は大きな影を草原に映し自然の大きさを目の当たりにすることができます。御飯は羊の肉をダイレクトにかぶりつき、今まで生きていたその新鮮な肉のおいしさに驚き、女性が小麦粉でうどん、具を包む皮、お菓子と計りもせず次々と作り出すその技に尊敬してしまいました。

馬の誕生を祝っての儀式に参加させてもらった際には、ゲルの中に大勢の人がモンゴルの民族衣装デールを着て座り、ウオッカを回し飲み、一人が歌いだすとみんなが歌いだすその光景はまさにウルルン滞在記の一場面を見ているようでした。

ゲルの中の灯りはろうそくだけ。ろうそくの明かりは電気の灯りよりも弱いはずなのに大きく包みこんでくれる暖かさがあります。電気も水道も、生活に必要な道具も最低限のものしかないモンゴルのゲル生活。そこで学んだことは、人間が生きていくことはとてもシンプルで、人、動物、自然、全てが助け合って生きていくことが大切なのだと感じました。特に人と人とのつながりを大切にするモンゴルの人たち。何もわからない私を家族のように受け入れてくれ、一つのゲルの中で寝る、食べる、遊ぶ、働く、毎日同じ空間で過ごしていくうちに、言葉も習慣も全く違うのに本当の家族のような安心感が生まれていました。日本へ帰る飛行機の中では涙が止まらなかったのを今でも覚えています。

それから毎年モンゴルへ行き続けてはや5年、毎年行く度にいろんなモンゴルを見ることができます。知れば知る程どんどん魅力的な国になる、それがモンゴルなのだと思います。そしてこれからもモンゴルに関わっていけたらな、と思っています。

なごやかにゲルのティーパーティー開かれる



5月5日、河北潟干拓地内にある藤木農園に建てられたゲルの中で。ティーパーティーが開かれた。当日は、内モンゴル出身のアンギルマさん

の手作りのモンユルティーやボウス、干しチーズなどをご馳走になり、互いの自己紹介をしたり、アンギルマさんからモンゴルの話を聞いたりして、なごやかに有意義な時間を過ごすことができた。直径5.5メートルのゲルの中は人でいっぱい

なり、30人以上の参加者を迎えることができた。広々とした畑、真っ白に咲き群れるハマダイコン、天候にも恵まれ、参加者は、ゆったりとした時間を過ごすことができたと思う。アンギルマ夫妻は結婚式に着たというモンゴル服を披露した。独特の色彩に彩られたゲルの内装、家具や置物を参加者は感嘆しながら珍しそうに眺め、突如現れたゲルに、モンゴルへ来たいという声も聞かれた。予告が遅れたため、予定があり、来られなかった人も多かったかもしれない。次の機会には是非どうぞ！



編集後記

若葉が目にしめる季節となりました。会員の皆さまお元気でお過ごしでしょうか。会報の創刊がすっかり遅れてしまい、申し訳ありません。紙面もやや手薄で悔やまれますが、とり急ぎお手もとにお届けします。次号からは、会員の皆さまの声もなるべく多く取り上げ、一層充実したものになるよう努力したいと考えています。協力をお願いいたします。モンゴルツアーの参加をお待ちしています。